

### 次郎長翁を知る会 第 10 平成10年6月12日発行 発行所 〒417月 〒424 清水市島崎町6-25 -0823 清水市観光協会内 TEL (0543)54-2420 発行人 竹内 宏 編集人 田口英爾 印刷所(株)ニシガイ

# 伏谷如水 (浜松藩家老) に光を 次郎長を大変身させた官軍先鋒

然たる駿府周辺を治めた。 会いからである。 次郎長が渡世人生活から社会事業家へ大転進を遂げたのは、 次郎長と如水の絆を駆って、清水市に呼びかけた。 英雄は英雄を知る。短い期間だが、二人は明治元年の物情騒 如水ゆかりの地、千葉県市原市では小出市長が率先 伏谷如水との出

市交流のきっかけとしようと、 た。これに対し、わが清水市の宮城島市長も、 伏谷如水と次郎長の関係について、 市長は「広報いちはら」に「市原と清水」と題し、 会報第七号ですでに報じたように、 如水・次郎長キャ 市原市小出 一文を寄せ



鉄舟寺所蔵の次郎長木像

ンペーンを進める当会の姿勢に全面的な賛意を表

る。高石さんは、竹内宏会長が五年ほど前、 さんが、 さんに贈呈されることになっている。 明治十二年に詠まれたもので、竹内会長から高石 商店主黒住二郎氏から、竹内会長に寄贈された。 れる和歌の短冊が発見され、 を書いた時、 春秋誌に「次郎長と私」と題して伏谷如水のこと 浜松藩家老だった如水がどうして市原かという 御勅題・ヒ卯 さらに、これをきっかけに、 今年の当会年次総会には、 市原市から来清して出席される予定であ 子孫として名乗られた方である。 元旦」と記されたその和歌は、 東京板橋の書画骨董 如水の子孫高石鶴子 如水の真筆と思わ

### 原市小出市長の一文を、

転封となったからである。

会報七号で紹介した市

明治

年、

浜松藩は鶴舞

(千葉県市原市

市原と清水 再掲しよう 小出善三郎 (市原市長

そのため、鶴舞の街から少し離れた岩井戸の山 民政長官の役を命ぜられていました。 の如水は、 腹に、彼の墓が建っています。鶴舞藩へ移る前 明治二年に市原市の鶴舞へ移住してきました。 浜松藩の家老伏谷如水は、 駿府町奉行に代わり、警察権を預る お国替えによって

私にはもう一つ、清水の次郎長が思い浮かぶの かわりを知ることが出来ました。清水市といえ 清水市に「次郎長翁を知る会」という会があ サッカーの清水エスパルスを連想しますが 私は会報の中から、 市原市と清水市とのか

らいいか、悩んだ末に次郎長を選んだのが浜松 松藩の藩主井上正直 藩の如水でした。 直轄だった駿府の市中警固役を、だれに任せた 官軍にとって、清水は交通の拠点でした。幕府 いて駿府に駐留したのです。王政復古を唱える して江戸に勤めていましたが、 駿府の治安責任者に登用されています。 歳の時、 記述によりますと、次郎長は慶応四年四十九 切った張ったの渡世人から一転して、 いち早く朝廷の命に従い、 (後の鶴舞藩主) は老中と 国元を預ってい 当時浜

駿州赤心隊、 遠州報国隊 伊 豆伊吹隊など、血

かに殺害されています。 気盛んな勤王義勇隊は、神官たちによって結成 気盛んな勤王義勇隊は、神官たちによって結成 気盛んな勤王義勇隊は、神官たちによって結成

(「広報いちはら」 平成八年二月一日号)

### 如水と次郎長の出会い

は「東海遊侠伝」だ。 は「東海遊侠伝」だ。 は「東海遊侠伝」だ。 は「東海遊侠伝」だ。 は同じ文政生れで如水が二歳年長だが、大変仲長は同じ文政生れで如水が二歳年長だが、大変仲長は同じ文政生れで如水が二歳年長だが、大変仲長は同じ文政生れで如水が二歳年長だが、大変仲長は同じ文政生れで如水と次郎長の親交を伝えるエピ

言った。

内して、別室の伏谷判事に引き合わせた。判事が

たかのようであった。

が活写されている。 そこには、次郎長を大変身させた二人の出会い

する駿府の町には不穏な空気がみなぎっていた。三月五日には駿府に着いた。家康のお膝元を自負有栖川宮を大総督とする東征官軍が京都を出発、明治元年(一八六八)、鳥羽伏見の戦いの後、

江戸幕府直轄の駿府町奉行に代わって、総督府に江戸幕府直轄の駿府町奉行に代わって、総督府に江戸幕府直轄の駿府町奉行に代わって、総督府に江戸幕府直轄の駿府町奉行に代わって、総督府に江戸幕府直轄の駿府町奉行に代わって、総督府に江戸幕府直轄の駿府町奉行に代わって、総督府に江戸幕府直轄の駿府町奉行に代わって、総督府に江戸幕府直轄の駿府町奉行に代わって、総督府に江戸幕府直轄の駿府町奉行に代わって、総督府に江戸幕府直轄の駿府町奉行に代わって、総督府に江戸幕府直轄の駿府町奉行に代わって、総督府に江戸幕府直轄の駿京に入いる。

長五郎が腹をくくって出頭すると、小役人が案やっぱ、よくねえ。行かなきゃ、なるめえ」お召しになるようだから、逃げかくれするのは、お召しになるようだから、逃げかくれするのは、お上が思やあわけねえことだが、今度のことは、お上が思やあればようというのじゃない。特別のことでおれば罪の多い身だ。出頭すれば、二度とお

御奉公につとめてもらいたい」の本公につとめてもらいたい」を登用して沿道の探索に当たってたこで、その方を登用して沿道の探索に当たってから上司に抗するなど、憂慮すべきことが多い。から上司に抗するなど、憂慮すべきことが多い。しくで、その方を登用して沿道の探索に当たっている。というには、原

長五郎は固辞した。

でおくんなさい」はありません。どうか勘弁して、ほかの人を選んしい無頼の徒が、お上の御用なんてつとまるわけ「とんでもねえことです。私らのように身分いや

時には酒を出してやったこともある。時には酒を出してやったこともある。長五郎の家にも、一度買ってやったら度たび現われ、た。よく見かけた顔である。その男は清水の港町た。よく見かけた顔である。その男は清水の港町た。よく見かけた顔である。その男は清水の港町た。よく見かけた顔である。その男は清水の港町た。よく見かけた顔である。その男は清水の港町は酒を出してやったこともある。

名乗った。 長五郎が不思議そうにしているので、その男が

ず記されている。長五郎は背中に冷水をかけられ下げてこれを聞いた。長五郎の旧悪が細大もらさ書類を朗読するように言いつけた。長五郎は頭を割事の顔に笑いがこぼれた。小池にささげ持つ者だ」

「包みかくしなどできることではございません。 を受けて長五郎は退出した。天保十 要直な長五郎をほめ、登用する旨を正式に申 は、率直な長五郎をほめ、登用する旨を正式に申 は、率直な長五郎をほめ、登用する旨を正式に申 は、率直な長五郎をほめ、登用する旨を正式に申 を受けて長五郎は退出した。天保十 本わせて、命を受けて長五郎は退出した。天保十 平民としては破格の帯刀を許されるという栄誉も あわせて、命を受けて長五郎は退出した。天保十 平民としては破格の帯刀を許されるという栄誉も あわせて、命を受けて長五郎は退出した。天保十 本のせて、命を受けて長五郎は退出した。天保十 本のである。

### **咸臨丸レクイエム・清水の夜明け** を書き終えて Ш 雅 子

この秋の公演に向かって稽古が開始された。杉山さんが次郎長に光を当て、何を 描こうとされたか、ご自身の筆で語っていただいた。 治元年九月、咸臨丸事件の起きた清水港を舞台に、主人公は清水次郎長。 団・清見潟の第三回公演は「咸臨丸レクイエム・清水の夜明け」と決まった。 昨年清水市民文化会館で公演され好評だった「帰って来た千人針」に続く劇 長い間構想を練りつづけた劇作家杉山雅子さんによる台本がこのほど完成し、 明

丸レクイエム・清水の夜明け」(演出・渥美啓二) 清水次郎長に新しい光をと願って創作した作品で 今秋、私たちの劇団・清見潟で公演する「咸臨 清水港開港百年祭プレイベントとして、また

岡鉄舟が主軸である。 よって上演されているが、これは咸臨丸士官と山 長前半生の任侠を謳歌した娯楽物で、僅かに昭 長を描いた作品は百本以上あるが、ほとんど次郎 十年岡本綺堂作「鉄舟と次郎長」が歌舞伎俳優に 今まで、映画やテレビドラマ、芝居などで次郎

観客を魅了する芝居としての面白さに欠けてしま 書きとして大いに食指が動き、 うのである。囚人を使っての富士の開墾などは物 となかなか難しく、書き悩んでいた。 に貢献した彼の後半生であるが、いざ書くとなる 清水港の整備や富士裾野の開墾、相良の油田開 私の書きたかった次郎長は、明治以降社会事業 鉄道の敷設等々、どれもが地味な題材で固く 暖かさと強さを併

「咸臨丸」を再読している時、

置いていた。 き、次郎長のことは暫し忘れる程の忙しさに身を 明治次郎長デビューであれば、お蝶という華も、 面にも触れなければならない。再評価を希っての せ持つ次郎長も描けるのであるが、人生の暗 上げ公演の「異聞、三保羽衣物語り」も第二回 化についての創作劇をモットーとして来たが、旗 湊の男の心意気も入れ、笑いや涙、感動で盛り上 県芸術祭演劇部門で静岡新聞社賞を頂くことがで 座として劇団・清見潟を創立し、地元の歴史、 げたい。書けないまま徒らに刻が過ぎた。 「還って来た千人針」もお蔭で大好評。 平成七年、私は生涯学習の清見潟大学塾の一講 後者では い裏 文

一月号に掲載されている歴史作家田口英爾先生の の熱い思いに打たれてか、突然閃めくものがあ そうだ!咸臨丸事件を中心にした人間次郎長を 一年前のことである。『歴史街道』一 大きな希望がふくれあがってきた。 田口先生の咸臨丸 九九二年

呂の準備はスイッチ・ポンで おまかせ「全自動風呂タイプ」

マイコン制御で とっても経済的! 1目約160円

TRY NEXT

※「時間帯別電灯」契約への加入が必要です

Potenta. [070] (土、日、祝日を除く) 8:30~17:00

なった。 何回も書き直し、この春五稿目がようやく台本に 材に応じて下さった先生は私の趣旨に御賛同下さ 紹介を得て、田口先生にお目にかかった。快く取 たのである。しかし未熟な私には荷が大き過ぎて ンバーで「季刊清水」編集長 坂本ひさ江女史の 書こう!鉄舟を感激させ、 して行く次郎長を書こうと心に決めると、劇団メ 以来御存知のことは惜しみなく教えて下さっ 鉄舟に感化されて変身

第一幕では咸臨丸乗組員の死体引き揚げを決意す 妻、近所の芸者たち、見廻り役人、鉄舟の登場で、 るまでの次郎長とお蝶、子分七人、漁師、 舞台は次郎長の家、すでに稽古は始まっている。 全二幕、上演時間一時間半、出演者二十余名で 人情、 対立、葛藤が浮き彫りとなり、 幕臣の 幕の

> セスである。 終りでは、 炊き出しまでして、男たちを励まそうというプロ うって一丸、 お蝶と子分の女房たちが

なる。 ざの足を洗えなかった彼なりの人生哲学の片鱗を 半は、鉄舟と次郎長によるこの芝居最大の山場と 覗かせている。 し、また子分たちの行末を案じて、その後もやく 第二幕は半年後の小正月。賑やかな幕明けの後 後に社会事業家に変貌する次郎長を示唆

を心よりお待ち申し上げる次第です。 を御理解いただき、一人でも多くの皆様の御観覧 に虚構の世界を繰り拡げるものであり、そのこと 演劇はあくまで史実や真実をふまえた上で、舞台 最後に皆様にお願いを申し上げたいのですが、

(劇団清見潟代表)

## ◉ 次郎長こぼれ話

## 敷居は決してまたがない

の姉で、甲田屋(米穀商)から江尻宿の古着商 歳の天寿を全うして他界されたが、その曾祖母 どで生誕二百年になるが、この間に代は四代な 松田屋の松田政吉に嫁した。 にあたる「みの」さんは次郎長の実母「とよ」 研究会会長林清見氏の母堂八重さんが、九十六 いし五代かわっている。五月下旬、清水郷土中 三年(一八二〇)の生れだから、あと二十年ほ たが実母の名は「とよ」という。次郎長は文政 次郎長は生まれてすぐ、甲田屋へ養子に行っ

田屋の家系は絶えているが、その流れを継ぐ清 ことだが、林清見氏から編集子は、市立図書館 水市美濃輪の豆腐製造業稲荷屋には家系図が大 分の分限をかたくなに守っていたのである。 で内に入ることはなかった。渡世人としての自 から声をかけるだけで、けっして敷居をまたい ょくちょくやって来たそうである。しかし店先 内の活動室でこの話を聞く機会を得た。 記念講演があってからまだ十日とたたない頃の 館で開かれ、慶喜研究の第一人者原口清先生の 次郎長が生まれてすぐ養子に行った米穀商甲 次郎長は伯母の嫁ぎ先である松田屋へは、 郷土史研究会の年次総会が、清水市中央公民 ち









が当てられそうです。 り、次は懸案だった伏谷如水と市原市にスポット ょうさん墓の補修は、これでやっと一段落とな した。厚く御礼申し上げます。三年がかりのおち 天気にもめぐまれ、四月十九日盛況裡に催されま 公園にある初代おちょうさんの墓参を織り込み、 次郎長ツアー〈春の三河路〉は、名古屋市平和

て五百人の聴衆が魅了されたようです。 ポで話が繰り出され、竹内ぶしもふんだんに入っ 要を得た手綱さばきで、時間を感じさせないテン 館中ホールでおしゃべりをしました。秋岡さんの 集子が駆り出され、五月十三日、清水市民文化会 公と次郎長」に竹内会長と秋岡栄子会員および編 明治の静岡推進協議会」の主催する講演会 NHKの大河ドラマのあおりで、「徳川慶喜と

埋れているようです。 となくトンビに油揚げの気分です。それにして ったのですが、そっちの方は別カットとなり、 手をつとめ慶喜と次郎長の出会いをお話しまし も、巴川のほとりには、歴史とロマンがいっぱい と、案内役をつとめた原木弥吉のことを話したか しては、慶喜が頻繁にやってきた清水港の投網漁 た。放映は六月下旬とのことです。実は編集子と 徹さんが来清し、わずか数分ですが編集子がお相 ・NHKといえば新番組「歴史出会い旅」で江守

す。どんな細かなことでも結構です。 会員の皆さんからの情報提供をお待ちしていま **田** 

切に保存されている。